

21世紀における地域対応

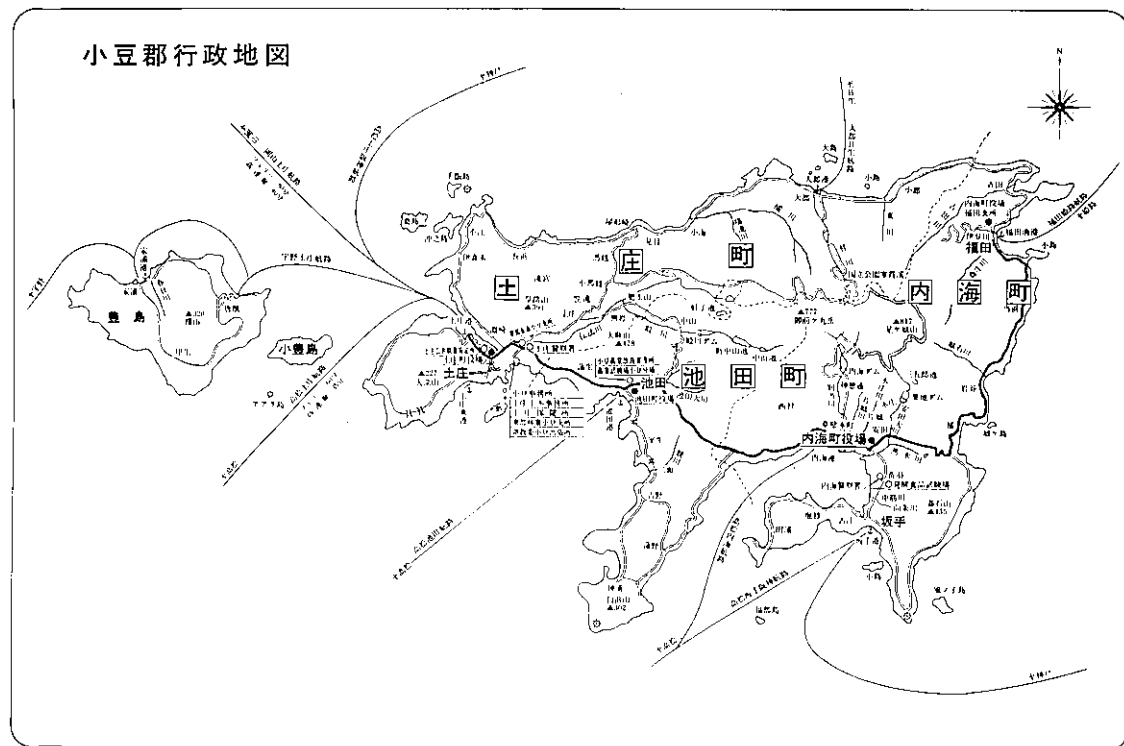
『小豆島21世紀ビジョン』の提唱

—新たなる小豆島振興をめざして—

平成3年10月

香川経済同友会

小豆郡行政地図



目次

I はじめに	2 頁
香川県の一角に存する小豆島を提言対象とした	
①21世紀における小豆島の位置づけ	
②小豆島ビジョンの理念	
II 小豆島の問題点	4 頁
III 小豆島ビジョンのいくつかの方向	4 頁
IV 小豆島21世紀ビジョン4つの提言	6 頁
提言 [1] 小豆島の「人口定住化」を促進しよう	
提言 [2] 小豆島を世界のリゾート地にしよう	
提言 [3] 港湾と道路を整備しよう	
提言 [4] 広域行政を目指そう	
V おわりに	9 頁
21世紀ビジョン委員会委員名簿	12頁
参考資料	13頁

I [はじめに]

香川県は本四架橋・高松新空港・高速道路のいわゆる三大プロジェクトが整備されつつあり、今やポストプロジェクトが云々されている。そして、西高東低と称するターゲットのもと東讃地区の道路整備等々も推進されつつある。それはそれとしての意義もあり意味もあるものではあるが、香川県の一角に存する小豆島についても、全県的位置から採り上げるべき意義と意味が存在するものと確信し、香川経済同友会としてはここにささやかな提言を提唱するものである。

平成3年10月

香川経済同友会

代表幹事 多田野 康雄

代表幹事 丸 山 修

21世紀ビジ
ョン委員長 久 米 志 明

21世紀ビジ
ョン分科会
委員長 平 地 保 治

①21世紀における小豆島の位置づけ

現在本四架橋の効果が云々されているが、その真の効果は「東瀬戸経済圏」の形成にあると思う。それは、今後明石大橋が完成し、香川県と岡山県、及び兵庫県、徳島県がリング状の経済圏、つまり東瀬戸コーナレーションが形成されるということによって最も大きな効果があり、これこそが本四架橋の真の目的だとさえ思うからである。

香川は、そうしたリング経済圏の一環として今後ともの対応が迫られているが、小豆島こそは、そのコーナレーションの丁度真ん中に位置し、人間で言えば「ヘソ」にあたる場所にあるのであるから、より以上に今後の対応を中心に考えるときにきているのである。

②小豆島ビジョンの理念

小豆島は農村歌舞伎に見られるような個性ある歴史、風土を形成しているものの、島であることから生活環境には厳しいものがあり人口の減少が続いている。今後、短期間のうちに現在の経済的環境の変化が、島の産業経済に大きく変化を与えることは明らかである。従って都市間競争や地域間競争の激化に耐えていく力が保てるよう瀬戸内小豆島としての役割を明確にしておかなければならない。

その中でも、島の産業形態の活性化を図るためには地場産業、リゾートの取り組み、伝統文化の継承、そして快適な住環境、コミュニティづくりの促進など衆知を集め取り組まねばならないものである。

さて、リゾート地のコンセプトはと言うと、いろいろな解釈があるが、「しばしば行く」とか「よく行く」、また「頼みの綱」といった意味もある。最近の傾向として人々は豊さとかゆとりとかを求めているから、そうしたソフトの提供によって人々がきてくださる地域にすること、それはその地域にとっては頼みの綱になるとの解釈もできるのである。

この、風光明媚で温暖な緑と太陽の瀬戸内は、今も人間の肉体と精神を回復させ、新しい創造力の付与を可能にさせてくれるところである。リクリエートなしには進歩はなく、保養なしには創造もない。小豆島はその中心となりうる地域なのである。

人間の脳細胞のトレーニングを行うブレン・センターが、今瀬戸内海の小豆島にある。ここで人間は、人間としてのあらゆる可能性について訓練されている。そしてすでに産業界、あるいは海外へ飛び出して人々にとって何が幸せか、幸せにするものは何かといったことの応用化段階に従事しつつある。

その自然の中で、瀬戸内海周辺の開発と平行して島の開発が進められることが不可欠なのである。

II 〔小豆島の問題点〕

この構想を提唱するにあたって、現在の小豆島の移り変わりを踏まえるべきであるが、その中でも特に重要なのは次の諸点と指摘することができる。

- (1)小豆島の人口の減少が続く一方、高齢化社会が急速に進展し、香川県の平均より10年早い水準になっている。このことから、経済の活力低下が現象面として現れてきている。
- (2)現在の日本の経済は、都市圏への一極集中の傾向があるが、経済の中心へのアクセスの面での交通体系の遅れが、小豆島の魅力を失わせている。
- (3)人口の都市集中に起因する若年層の県外流失のため、小豆島の基幹産業である醤油・調味料食品の業界は、合理化、機械化のうえに他の県より早く女性の企業参加により事業を支えてきたが、その年齢層から見て限界が来ている。
- (4)リゾート、観光産業としての歴史的、また文化的資源は大いに活用できるが、それに携わる人が減少し、その活用に大きな障害要因となってきたことが指摘される。

III 〔小豆島ビジョンのいくつかの方向〕

- (1)文化、芸術創造の島づくり

自然環境と快適の整備に心掛けること。

- (2)関西圏、中国、四国の中間に位置している小豆島。瀬戸内海沿岸各地への日帰り且つ24時間体制交通体系の確立。すなわち、大阪新空港、大阪、神戸、姫路、岡山、高松、淡路等すべて港へ1時間内の時間で結ぶ。さらに現在の夜間未就航の船便を24時間就航の海上交通の体系化。

(3)国及び県が指定している天然記念物の宝庫である小豆島は、数世紀にわたって続けている産業を基盤とし、そのうえに魅力ある情報基地としての企業の立地推進に努める。

(4)自然環境が温帯寒帯植物の同時成育の島として、瀬戸内海の研究とバイオテクノロジーが同時に進行できる研究所立地としての優位性をフルに生かす。

(5)島全体を1リゾート地と考え、湾岸、道路、水は小豆島を一ブロックとして位置づける。

現在、夏期の水資源が例年話題になっているが、吉田ダム(貯水220万t)が着工されており、さらに追加に伏流水ダムの推進により来世紀には水の問題は解消されるだろう。

(6)国道及び県道に、サイクリングができる安全な道路計画が必要である。

(7)小豆島の動態的变化をふまえた意義の転換を試みる。

例えば行政的な境界に拘泥するこれまでの縦割的な発想を改めること。瀬戸内海の全体の動態をとらえ、長期的な視野に基づく島の整備を行うこと。農林水産業については、基本的な見直しをし、実体を正確に理解すること(例えば、農家としての農業ではなく、ホビー農業として楽しむ農業を行う)。

(8)産業競争に打ち勝つための強い島づくりを志向する。瀬戸内周辺リゾート時代における島の特性の理解を深めること。

(9)若年層の定着をはかることに加えて、常住人口の増加に努める。

魅力ある就業機会の確保、島への企業誘致、食品地場産業振興のための食品専門学校の設定等について、島内3町及び産業界は理解を深めること。

(10)大学のセミナーセンターの誘致。

国際交流地としての事業を展開すること。

IV〔小豆島21世紀ビジョン4つの提言〕

我々は以上の小豆島の問題点と方向を踏まえつつ次の4提言を提唱する。

〔1〕小豆島の「人口定住化」を促進しよう

ここ小豆島には2つの公立高校があり、毎年500～600人の学生が卒業している。その70％は進学していく。地域に根ざした高校としては非常に高い進学率であり、優秀な人材には、事欠かないはずである。しかるに、これらの人材の内、小豆島に残り職業につくのは大学を出て就職するものを含めても、20％に満たない80名に過ぎない。都会の持つ魅力とは、情報の量と質である。それが情報に敏感な若い世代にとり、小豆島を魅力ないものとしている。

しかし、現在色々な通信メディアの進歩により、地図上の距離は問題にならなくなってきたおり、情報、サービス産業にとって、小豆島の立地環境はもはやハンデではなくなってきた。従って現在年産300億円の地場食品産業における醸造バイオの活用等による既存産業のハイテク化推進、及び風光明媚なこの小豆島にソフト・ハイテク企業を誘致することにより、都会との情報のギャップをうめ若い世代にとって魅力的な職場を与えること等の施策で、現在他県に流出している20～30歳の人材の内、約20％の1000人のUターンが可能である。

〔2〕小豆島を世界のリゾート地にしよう

統計的に言えば、いま日本の国民一人あたりの所得は世界一だと言われているが、働く時間も世界一のようなものである。そして、空間的に言うと

日本人の生活空間は欧米に比べると約60%程度である。依って所得は多く、時間、空間が非常に狭い。したがって時間および空間を拡げることによりそこにゆとりが生じる。それを提供する地域がリゾート地であるといった観念論もあるが、時間、空間、距離といったものを日常生活ベースから脱却でき、心のふるさととして一週間でいどは滞在し得るような地域、人工と自然の調和によって合目的的に構築された地域、それがリゾート地だと言えるのである。

21世紀には文明の異常な発展がトコトンまで行った自然無視にきつと反省期がくると思う。人間はあまりの渇きに耐えられぬもので、「文明はもうたくさんだ。自然を返せ」という国民の声がある。

ほとんどの仕事が「作り出す喜び」を味わうことのできない、分業化され、機械化されているために、自由時間には自分で物をつくりたいという欲求が強く、創作活動が盛んになる。創造と社交と活動などの欲求がこれらのレクリエーション施設を中心とした場で満たされ、人間性の回復に大きく貢献している。

こうしたリゾート地の手法は芝居と同様だと言える。先ずシナリオが、そして舞台・アクター・観客が必要です。リゾートのシナリオはその方面のプロ、たとえばシンクタンクが中心となって有識者とか行政の人々により書くべきであるが、舞台はその地域の環境であり自然なのである。アクターは、その地域住民全員であるべきである。そして世界の観賞に耐え得るものでなければいいものにはならないのである。そして、重点的要素としては三つの要素がある。その①は自然、その②は歴史、そしてその③は人間の感性なのである。

こうした条件をすべて満たしうるのは、小豆島と考えられる。そして、この目的を果たすリゾート地としては小豆島に求めるべきである。

[3] 港湾と道路を整備しよう

小豆島には県管理の港湾は7港あるが、主要港湾である東の坂手港および西の土庄港は小豆島の玄関口にふさわしい構造、外観に整備する必要がある。

特に、地形、水深の良好である坂手港は、国際観光港として外国船を含む2万トン級の大型旅客船が停泊可能で、かつ定期船と不定期船の出入りがスムーズにできるようなバースと港湾施設の整備が必要である。

先述のとおり瀬戸大橋、鳴門大橋を結ぶ瀬戸内周辺の整備が完備されている時、その東瀬戸圏の中心的位置である小豆島としての存在を意義あらしめる為にも港湾の整備と現在の夜間未就航の航路でなく24時間体制の航路の設定は不可欠なものなのである。

また、国道をはじめとして各道路網の整備も島外とのアクセス推進上も必要である。

[4] 広域行政を目指そう

現在、小豆島の行政は3町にまたがっている。島としての必要性よりも各町それぞれを中心としての考えが先行している。町の行政単位で考えれば当然のことであるが、東瀬戸内海の中心としての小豆島の今後を考えると、島の目指すものとか、その目的は共通の認識に立ち、一つの目標に向かってインフラからはじまって多様な諸問題を前向きに解決し構築するためには、1ブロックとして島住民が一つになって、その英知と熱意よっての「ちいきづくり」が必要なのである。各行政当局も一つの視点にたったの強力な地域政策が必要なことを力説するものである。

言いかえれば、国、県の行政自体が各町ごとにとりあげられているが、

活力を取り戻す上に、小豆島としての一体化を持った政治・行政が必要である。

V [おわりに]

経済がハードからソフトへ移行しつつある現在においては、東京エリアに対し、大阪湾ベイエリアを含む関西圏が発展し、一極集中を解消することは日本経済の急務であり、今後の経済活動の在り方を見た時、関西、中四国の中間に位置する風光明媚で、未来への大きな可能性を有する小豆島が、ここにおいてただ瀬戸内に浮かぶ一つの島としての意味しか持たないとするならば、単に小豆島だけの問題ではなく、国家的損失であると信じるところである。

さて、文化のカテゴリィは諸々あるが、その地域で、その地域の人々が、営々として汗して構築し、アメニティ溢れる収穫そのものではないかとの意見もある。まさに小豆島の文化は小豆島の住民の意識的かつ積極的な行動がその出発である。このささやかな提言がその事へのトリガーになれば幸甚である。

おわりに、本提言は小豆島21世紀ビジョンの提唱である。提言実現の目途を21世紀はじめと設定し各位の努力により可能な限りビジョンが実現されることを心から念願するものである。

追記

- (1) 平成2年2月26日：第一回「21世紀ビジョン委員会」を開催し、委員会内での役員選出、活動方針等が討議された。
- (2) 平成2年3月9日：第一回「21世紀ビジョン委員会正副委員長会議」を開催し、年間の活動スケジュール及び活動テーマについて討議された。
- (3) 平成2年3月16日～4月9日：「21世紀ビジョン委員会」の活動テーマについて委員会メンバー全員のアンケート調査を実施した。
- (4) 平成2年7月19日：第二回「21世紀ビジョン委員会正副委員長会議」を開催し、アンケート調査に基づいて出された16の活動テーマより7つのテーマに絞り込みを行ない、分科会を発足させる提案を決議した。
- (5) 平成2年7月19日：第二回「21世紀ビジョン委員会」を開催し、香川県より「香川県21世紀長期構想」策定に携わってと題した講演を受けた。活動テーマ7つより5つのテーマについてそれぞれ分科会を発足させた。
- (6) 平成2年8月20日：第三回「21世紀ビジョン委員会」を開催し、分科会メンバーの選出及び分科会活動について討議された。
- (7) 平成2年9月11日～30日：「高齢化社会における企業の対応策」分科会より香川経済同友会メンバー全員に対して企業アンケートを実施した。
- (8) 平成2年12月27日：第四回「21世紀ビジョン委員会」を開催し、分科会毎の活動進捗状況報告が行なわれ、分科会提言に向け着々と活動されている状況となった。

- (9) 平成3年1月30日：「小豆島の将来構想」分科会が小豆島にて開催。
久米委員長、原副委員長両名が出席。
- (10) 平成3年4月2日：第五回「21世紀ビジョン委員会」が開催され、
3つの分科会より「高齢化時代の福祉問題」「高齢化社会における企業の対応」「小豆島21世紀ビジョンの提唱」と題した提言案が提案され、討議後「高齢化社会における企業の対応」「小豆島21世紀ビジョンの提唱」の2分科会提言案を本年度中に提言するとの決議がされた。

香川経済同友会「21世紀ビジョン委員会」委員名簿

(☆印は分科会委員)

[代表幹事]	多田野康雄 丸山 修	(株)タダノ 代表取締役会長 南海プライウッド(株) 代表取締役社長
[委員長]	久米 志明	大倉工業(株) 取締役社長
[副委員長]	原 敏郎	三菱商事(株)四国支店 四国支店長
	富田 盛夫	四国計測工業(株) 代表取締役社長
	西野 信也	西野金陵(株) 代表取締役専務
	二川 正嗣	日涉塗料(株) 代表取締役社長
	吉岡 哲朗	(株)タマル 常務取締役
[幹事]	高木 真作	(株)加ト吉商事 代表取締役社長
	檜垣 文昌	今治造船(株) 代表取締役副社長
	☆平地 保治	(株)オリーブ園 代表取締役社長
	松田 考師	(株)讃岐造船鉄工所 代表取締役
	齋藤 一博	山陽放送(株)四国支社 取締役四国支社長
[委員]	浅見 英二	香川三菱自動車販売(株) 専務取締役
	安藤進士郎	五洋建設(株)四国支店 第2営業部長
	☆池田 敏幸	日本国土開発(株)四国支店 支店長
	岡 茂樹	光洋精工(株)高松工場 工場長
	小出 勝	コスモ商事(株) 代表取締役社長
	小林 弘明	(株)播州電機製作所 代表取締役
	武智 義則	ベルモニー平安閣グループ 代表取締役
	☆武部 一成	タケサン(株) 代表取締役社長
	多田 幸生	(株)多田荘 代表取締役
	柘植 賢之	(株)ツゲ炭酸工業 代表取締役
	中田 一郎	(株)大広高松支局 支局長
	藤村 哲司	(株)藤村鐵工所 代表取締役社長
	古川喜士一	日本工機(株) 代表取締役社長
	山内 和夫	丸三建材工業(株) 代表取締役社長
	山下 清文	(株)山清 代表取締役
	吉本 誠司	安田生命保険(相)高松支社 高松支社長
[事務局]	石丸 尚志	香川経済同友会 常任幹事事務局長
	京谷 年祐	香川経済同友会 調査第二課長

参 考 資 料

- 1) 昭和63年香川縣市町別の業種と出荷額.....15頁
(従業者4人以上の事業所)
- 2) 人口の推移(国勢調査年度別).....16頁
- 3) 平成3年度当初予算.....17頁
- 4) 五大観光地別利用状況.....17頁
- 5) 市町村の変遷(合併等の態様).....18頁

1) 昭和63年香川県市町別の業種と出荷額 (従業者4人以上の事業所)

：出荷額200億円以上
 ×：1～2事業所の秘密保持のため
 数値を秘匿 (単位百万円)

	基		材				型		加		工		組		立		型		生		活		間		型
	木材	バルブ 紙	化学	石灰	石炭	プラスチック	ゴム	窯業 土石	鉄鋼	非鉄 金属	金属	一般 機器具	電気	輸送用	精密	食料品	飲料	繊維	衣服 その他	家具	出版 印刷	皮革	その他		
高松市	20,144	16,458	6,811	×	×	8,462	×	14,892	41,761	2,346	32,396	91,461	26,416	15,456	1,693	29,247	61,450	5,031	10,933	15,601	32,461	839	10,258		
丸亀市	29,052	494	7,134	×	×	13,826	2,277	4,630	2,305	×	5,654	59,788	25,874	5,612	3,444	7,258	3,444	3,046	1,517	4,576	×	2,005			
坂出市	3,047	10,118	16,766	165,000	×	576	×	4,017	×	835	2,953	7,127	1,371	24,913	105	40,463	13,997	5,867	1,955	1,128	×	570			
善通寺市	×	7,169	×	×	×	7,290	×	×	×	×	531	×	×	×	×	9,533	525	2,764	2,331	369	×	×			
観音寺市	1,087	3,490	×	×	×	1,476	×	×	×	2,091	8,303	5,652	×	×	×	24,552	4,320	5,622	315	1,504	×	80			
大川郡	2,868	3,881	8,665	×	×	7,166	13,049	6,624	×	4,808	72,288	2,208	4,385	2,250	2,250	23,398	2,781	4,018	2,148	1,537	29,285	4,395			
引田町	648	1,741	×	×	×	4,260	×	×	×	×	20,965	×	×	×	×	1,941	111	1,863	×	×	15,569	×			
白鳥町	×	263	×	×	×	1,482	×	×	544	432	2,398	×	×	×	×	1,019	14,902	653	135	567	9,432	781			
大内町	×	×	×	×	×	1,726	×	1,244	×	200	628	×	×	×	×	1,488	7,871	1,644	879	1,091	1,091	1,010			
津田町	195	×	×	×	×	×	×	×	×	188	47,929	×	4,060	×	×	4,504	225	544	×	97	743	2,093			
善徳町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	561	×	×	×	×	×	13,035	×	169	284	×	202	×			
栗田町	1,403	×	×	×	×	844	×	1,537	×	1,217	×	×	515	×	×	13,035	2,348	4,286	110	788	×	×			
小豆郡	797	×	×	×	×	×	3,336	×	×	×	411	5,718	×	×	×	44,993	×	1,743	110	×	×	×			
内海町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	29,970	×	2,433	110	×	×	×			
土庄町	×	×	×	×	×	×	1,553	×	×	×	×	×	×	×	×	13,072	×	109	×	×	×	×			
池田町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1,950	×	×	×	×	×	×			
木田郡	×	1,337	×	×	×	120	21,389	×	×	1,947	4,007	1,031	377	×	×	5,426	×	301	4,002	2,353	1,598	1,081			
三木町	426	×	×	×	×	120	1,951	×	×	1,241	1,057	×	×	×	×	1,660	×	904	1,804	×	1,514	873			
牟礼町	×	×	×	×	×	×	11,040	×	×	×	2,518	×	×	×	×	874	×	399	1,432	×	×	×			
庵治町	×	×	×	×	×	×	8,397	×	×	×	431	×	×	×	×	3,091	×	574	766	×	×	×			
香川郡	1,044	×	7,115	×	×	×	5,692	460	87,279	9,989	1,803	6,849	63	×	×	6,727	×	975	3,329	2,773	×	×			
塩江町	403	×	×	×	×	×	×	×	×	9,770	429	×	×	×	×	×	×	885	2,489	2,070	×	×			
香南町	640	×	6,505	×	×	×	×	×	87,279	218	1,374	×	×	×	×	2,627	×	×	×	×	×	×			
直島町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	2,942	×	×	×	×	×	×			
綾歌郡	1,295	8,466	800	×	×	3,395	6,754	×	×	39,939	3,737	21,287	×	×	×	15,409	939	16,548	12,623	355	115	784			
綾上町	×	×	×	×	×	×	2,888	×	×	2,667	1,248	×	×	×	×	1,153	×	555	4,674	×	×	248			
綾南町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	367	×	×	×	×	×	2,478	×	2,141	582	518	×	×			
国分寺町	438	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	8,122	×	×	682	901	×	×			
綾歌町	453	×	×	×	×	×	1,055	×	×	×	913	×	×	×	×	2,603	×	6,310	1,000	4,430	×	×			
坂山町	×	×	×	×	×	×	1,155	×	×	36,562	×	×	×	×	×	273	×	1,570	1,570	×	×	×			
字多津町	1,403	4,867	×	×	×	152	233	4,892	1,446	35,733	7,723	22,055	13,251	×	×	12,645	3,858	1,540	2,218	399	404	1,919			
琴南町	×	×	×	×	×	×	2,626	×	×	×	×	1,643	×	×	×	×	×	253	×	×	×	×			
清盛町	1,025	×	×	×	×	49	×	×	×	557	596	×	×	×	×	2,539	×	165	431	260	×	492			
琴平町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	34,990	6,709	18,908	×	×	×	2,257	×	160	×	×	×	1,219			
多度津町	×	×	×	×	×	×	1,425	×	×	×	×	×	×	×	×	7,769	×	1,317	×	148	×	×			
仲南町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	549	×	×	×	×			
三豊郡	16,306	46,510	1,131	×	×	3,487	376	22,914	6,413	12,976	6,696	13,297	6,203	×	×	33,853	622	8,555	7,779	12,828	61	1,331			
高松町	×	×	×	×	×	×	908	×	×	2,362	2,997	1,912	×	×	×	5,957	×	89	×	×	×	×			
山本町	119	3,086	×	×	×	×	712	×	×	2,913	700	×	×	×	×	7,166	×	244	1,980	199	×	×			
三野町	×	2,785	×	×	×	×	×	×	×	2,797	×	×	×	×	×	2,274	×	1,161	×	×	×	×			
大野原町	273	8,977	×	×	×	382	6,170	×	×	2,031	992	×	×	×	×	3,361	×	287	1,161	×	×	×			
豊中町	250	×	×	×	×	1,245	307	×	×	2,031	×	9,801	×	×	×	4,607	×	170	1,240	12,419	×	×			
詫間町	14,534	×	×	×	×	×	10,941	×	×	2,992	×	×	3,729	×	×	23,354	×	170	1,240	×	×	×			
仁尾町	×	×	×	×	×	×	1,244	×	×	×	331	×	×	×	×	3,079	×	7,907	1,859	×	×	×			
豊浜町	305	26,219	×	×	×	709	×	×	×	×	482	×	1,077	×	×	×	×	×	×	299	×	664			
財田町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			

2) 人口の推移 (国勢調査年度別)

市 町	平成2年国調人口 (概数)				昭和60年国調人口				昭和55年国調人口			
	世帯数	総数	男	女	世帯数	総数	男	女	世帯数	総数	男	女
	県 計	322,807	1,023,434	491,593	531,841	306,996	1,022,569	492,696	529,873	293,979	999,864	481,104
小豆郡 計	13,621	40,646	19,076	21,570	13,537	42,185	19,802	22,383	13,663	43,568	20,461	23,107
内 海 町	4,727	14,214	6,696	7,518	4,763	14,962	7,061	7,901	4,806	15,452	7,276	8,176
土 庄 町	6,884	20,191	9,451	10,740	6,751	20,752	9,710	11,042	6,857	21,398	10,006	11,392
池 田 町	2,010	6,241	2,929	3,312	2,023	6,471	3,031	3,440	2,000	6,718	3,179	3,539

市 町	昭和60年～平成2年の増加数				昭和55年～昭和60年の増加数			
	世帯数	増加率 %	人	増加率 %	世帯数	増加率 %	人	増加率 %
	県 計	15,811	5.2	865	0.1	13,017	4.4	22,705
小豆郡 計	84	0.6	-1,539	-3.6	-126	-0.9	-1,383	-3.2
内 海 町	-36	-0.8	-748	-5.0	-43	-0.9	-490	-3.2
土 庄 町	133	2.0	-561	-2.7	-106	-1.5	-646	-3.0
池 田 町	-13	-0.6	-230	-3.6	23	1.2	-247	-3.7

資料：香川県

3) 平成3年度当初予算

(単位：千円)

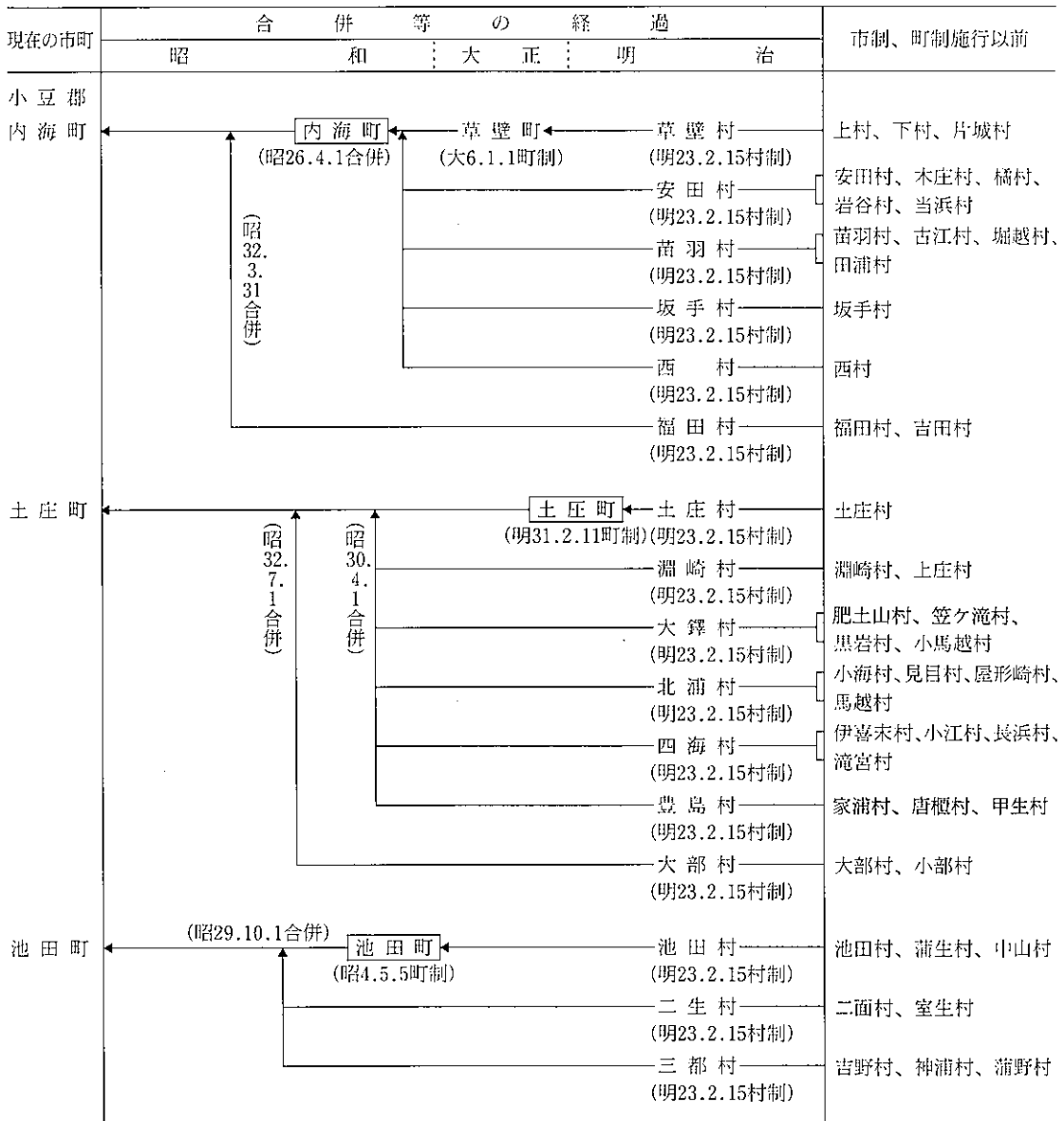
区 分	土庄町	池田町	内海町	計
一般会計	6,126,000	3,023,800	4,870,000	14,019,800
簡易水道	42,116	3,517	57,300	102,933
国 保	1,219,098	472,962	893,700	2,585,760
老人保険	1,257,505	554,106	1,226,000	3,037,611
埋立事業	682,481	—	25,367	707,848
財産区	10,286	—	—	10,286
水道事業	450,255	127,687	327,500	905,442
病院事業	1,494,815	—	1,699,895	3,194,710
診療所	—	—	52,000	52,000
休養地	—	199,498	—	199,498
農業集排	53,630	—	—	53,630
ふるさと村	—	59,141	—	59,141
合 計	11,336,186	4,440,711	9,151,762	24,928,659

4) 五大観光地別利用状況 (昭和45・50・55・60～平成元年) (単位 人)

区 分	総 数	栗林公園	屋 島	琴 平	小豆島	五色台
昭和45年	8,956,738	1,695,430	2,115,576	4,022,770	1,122,962	—
50	9,058,242	1,524,462	1,719,746	3,942,339	1,229,266	642,429
55	8,387,974	1,280,129	1,486,198	3,800,000	1,253,840	567,807
60	8,337,980	1,150,061	1,434,525	3,960,000	1,173,507	619,887
61	8,161,233	1,163,362	1,389,480	3,730,000	1,200,421	677,970
62	7,766,422	955,105	1,202,749	3,650,000	1,226,730	731,838
63	11,864,760	2,180,092	2,132,256	5,200,000	1,373,033	979,379
平成元年	10,525,667	1,827,982	1,736,923	4,780,000	1,386,073	794,689
1月	850,855	104,004	115,189	495,000	84,526	52,136
2月	508,774	104,832	96,539	300,000	73,571	23,832
3月	1,007,873	207,088	178,612	430,000	118,195	73,978
4月	1,084,384	214,838	171,879	500,000	109,299	88,368
5月	1,194,161	220,559	212,139	535,000	130,730	95,733
6月	908,433	153,250	133,588	480,000	92,976	48,619
7月	706,704	119,576	120,038	280,000	127,335	59,755
8月	917,996	156,444	167,557	295,000	185,903	113,092
9月	682,487	133,738	133,250	245,000	99,535	70,964
10月	1,231,692	205,273	190,302	640,000	128,035	68,082
11月	934,062	167,985	162,950	380,000	162,048	61,079
12月	408,246	40,395	54,880	200,000	73,920	39,051

資料：県観光振興課

市 町 村 の 変 遷 (合併等の態様)



資料：香川県

21世紀における地域対応
『小豆島21世紀ビジョン』の提唱
—新たなる小豆島振興をめざして—

平成 3 年 10 月 17 日発行

発 行 香川経済同友会

常任幹事 石 丸 尚 志
事務局長

〒760 高松市丸の内 2 番 5 号

ヨンデンビル別館 3 階

TEL 0878-21-8754

FAX 0878-23-1160

香川経済同友会提言 No. 3